

- 問1 九州地方では1970年代以降、空港の周辺や高速道路の沿線に、集積回路（IC）などの電子部品を生産する工場が数多く進出しました。これらの工場が、港湾部ではなく内陸の交通の便が良い場所に集まった理由として、最も適切な説明を選びなさい。（2017年 徳島県公立入試 類似）
1. 製造工程で大量の石炭や原油を燃料として消費するため、海外からの資源を直接搬入できる場所が求められたから
 2. 広大な土地と大量の工業用水を確保する必要があり、人口の密集する沿岸部を避けて内陸部に集積したから
 3. 製品が小型で軽量かつ高価であり、航空機やトラックを利用した迅速な輸送が重要視されたから
 4. 製品が非常に重く大型であるため、専用の大型車両が走行できる空港直結の特殊な道路が必要だったから
- 問2 九州地方の宮崎平野などで盛んな、冬でも温暖な気候やビニールハウスなどの施設を利用することで、作物の成長を早めて出荷時期をずらす栽培方法を何といいますか。（2022年 宮城県公立入試 類似）
1. 近郊農業
 2. 促成栽培
 3. 抑制栽培
 4. 二毛作
- 問3 九州地方に位置するある県の農業統計を確認すると、農業産出額の総計が全国でもトップクラスであり、品目別の内訳では米や野菜の金額に比べて、肉用牛や豚、鶏などの「畜産」の金額が突出して高いという特徴があります。この県として正しいものを選んでください。（2020年 鳥取県公立入試 類似）
1. 千葉県
 2. 愛知県
 3. 鹿児島県
 4. 新潟県
- 問4 北西太平洋に位置する熱帯低気圧のうち、最大風速が一定以上になったものを台風と呼びます。この台風が日本の九州・沖縄地方に及ぼす影響と人々の対応について述べた文として、正しいものはどれですか。（2016年 大分県公立入試 類似）
1. 活動を休止していた火山が急に噴火することで発生し、農作物に深刻な灰害をもたらすため、防灰ネットが活用されている。
 2. 夏から秋にかけて接近することが多く、強風や大雨による自然災害をもたらすため、事前の備えが重視されている。
 3. 一年を通じて発生し、冬には大量の降雪をもたらすため、屋根の傾斜を急にするなどの建築様式がとられている。
 4. 突発的に発生する地殻変動が原因であり、大規模な津波を引き起こす可能性があるため、高い防潮堤が築かれている。
- 問5 九州地方の農業において、鹿児島県や宮崎県を含む南九州で特に生産が盛んであり、統計上も九州地方全体の農業産出額の約4分の1を占める主要な部門はどれですか。（2018年 福岡県公立入試 類似）
1. 果実
 2. 米
 3. 畜産
 4. 工芸作物
- 問6 地形図において、標高の低い谷状の土地や川の周辺に、二本の横線に短い縦線が添えられた地図記号（水田）が多く配置されていることがあります。このような低地が水田として広く利用されている理由として、最も適切な説明を次の中から選びなさい。（2020年 群馬県公立入試 類似）
1. 水はけが非常に良く、常に乾燥した状態を保てるため
 2. 標高が低く、森林や果樹園にするには日照時間が不足するため
 3. 川に近く、稲作に必要な水が得やすいため
 4. 地盤が安定しており、大規模な工業団地を建設するのに適しているため
- 問7 九州地方の中西部に位置し、東は宮崎県と大分県、北は福岡県、南は鹿児島県に隣接する県があります。この県の南西端に位置する沿岸部の都市で発生した、四大公害病の一つに数えられる公害病の名称と、その舞台となった都道府県名の組み合わせとして正しいものはどれですか。（2020年 岐阜県公立入試 類似）
1. イタイイタイ病 ― 富山県
 2. 新潟水俣病 ― 新潟県
 3. 四日市ぜんそく ― 三重県
 4. 水俣病 ― 熊本県
- 問8 九州地方の北部に位置し、福岡県と佐賀県にまたがって広がる、日本を代表する稲作地帯として知られる平野はどれか。（2023年 青森県公立入試 類似）
1. 宮崎平野
 2. 筑紫平野
 3. 十勝平野
 4. 熊本平野
- 問9 九州地方の北東部に位置し、別府や由布院といった日本を代表する温泉地がある大分県では、火山の熱エネルギーを直接利用した発電が行われています。この発電方法を何といいますか。（2025年 北海道公立入試 類似）
1. 地熱発電
 2. 水力発電
 3. 風力発電
 4. 太陽光発電
- 問10 九州地方の工業発展の歴史と、その後の変化について述べた文として正しいものはどれか。（2016年 神奈川県公立入試 類似）
1. 明治時代から石炭資源を背景に重工業が発展したが、現在はIC（集積回路）や自動車工業など産業の多様化が進んでいる。
 2. 九州北部の工業は、地熱発電による電力を主軸として発展しており、石炭や石油などの化石燃料を一切使用したことがない。
 3. かつては石油資源の産出によって重工業が発展したが、現在は環境保護のために全ての工場が内陸部へ移転している。
 4. 現在も九州北部では石炭が主要なエネルギー源として採掘され続けており、重化学工業の出荷額が全国1位を維持している。
- 問11 沖縄県などの琉球石灰岩が広く分布する地域では、雨水が地中に浸透しやすく農業用水の確保が大きな課題となってきました。この課題を解決するため、サトウキビ畑などが広がる地層において、水を通しやすい琉球石灰岩の層と、その下にある水を通しにくい泥岩層との間に「止水壁」を設け、地下水の流れをせき止めて貯水する施設を何と呼びますか。（2017年 沖縄県公立入試 類似）
1. 貯水池
 2. ため池
 3. 湧水地
 4. 地下ダム
- 問12 日本の各県の農業産出額を比較した際、沖縄県には他県と異なる際立った特徴が見られます。その内容と背景について正しく説明しているものはどれですか。（2017年 愛知県公立入試 類似）
1. 平坦な土地と豊富な水資源を活かし、稲（米）の産出額が全体の半分以上を占めている。
 2. シラス台地の特性を活かし、広大な土地で茶の生産や肉用牛の飼育が農業の中心となっている。
 3. 温暖な気候を活かしたさとうきびなどの工芸作物の栽培が盛んで、その産出額の割合が約40パーセントと非常に高い。
 4. 大消費地に近い立地を活かして、キャベツやレタスなどの近郊農業による野菜の産出額が最も多い。
- 問13 福岡県の北九州市に関して、かつて官営八幡製鉄所が建設され重化学工業が発展したが、現在ではその産業構造に変化が見られる。この地域の現在の特徴的な取り組みとして最も適切なものはどれか。（2017年 北海道公立入試 類似）
1. 公害克服の技術や経験を生かしたエコタウンの形成
 2. 広大な平野を利用した大規模な稲作と野菜の抑制栽培
 3. 伝統的な繊維産業を中心とした工場産業の振興
 4. 周辺のリアス海岸を生かした真珠や魚介類の養殖

答え合わせ・解説

問1	答え 3 製品が小型で軽量かつ高価であり、航空機やトラックを利用した迅速な輸送が重要視されたから	集積回路（IC）は、鉄鋼や石油化学製品など異なり、製品が非常に小さく軽量で、かつ高い付加価値を持っています。そのため、輸送費に占める運賃の割合が低く、船による大量輸送よりも、スピードに優れた航空機（空港）や、各拠点へ柔軟に配送できるトラック（高速道路）による輸送が適しています。このような背景から、九州の内陸部にはIC工場が集まり、「シリコンアイランド」と呼ばれるようになりました。
問2	答え 2 促成栽培	宮崎県などの温暖な地域では、冬の暖かさを活かしたり、施設内で温度調節を行ったりすることで、本来の収穫時期よりも早く作物を育てる手法がとられています。これにより、他の地域からの出荷が少ない冬から春にかけて市場に供給することが可能になります。対義的な用語である「抑制栽培」は、高冷地などの冷涼な気候を利用して出荷時期を遅らせる方法を指します。
問3	答え 3 鹿児島県	鹿児島県は、広大なシラス台地が広がっており、水持ちの悪い土地柄からかつては稲作が困難でした。そのため、広大な土地を活かした畜産業が発展し、現在では農業産出額に占める畜産の割合が非常に高い「畜産王国」として知られています。北海道と混同されやすいですが、九州地方という条件や、シラス台地の活用という背景から判断します。
問4	答え 2 夏から秋にかけて接近することが多く、強風や大雨による自然災害をもたらすため、事前の備えが重視されている。	台風は、低緯度の海上で発生した熱帯低気圧が発達したもので、日本付近には主に夏から秋にかけて接近します。九州・沖縄地方はその経路になりやすく、猛烈な風や激しい雨による被害が繰り返し発生してきました。そのため、ハザードマップの確認や避難体制の整備、住居の補強といった防災・減災への取り組みが地域社会の重要な課題となっています。津波は地震、降雪は冬の季節風、灰害は火山活動に関連するものであり、台風の定義や性質とは異なります。
問5	答え 3 畜産	鹿児島県や宮崎県を中心とした南九州は、シラス台地と呼ばれる火山噴出物による台地が広がっており、水持ちが悪く稲作に不向きな土地が多く存在しました。そのため、古くから畑作とともに肉用牛、豚、鶏などの飼育を行う農業が発展し、現在では日本有数の生産地となっています。
問6	答え 3 川に近く、稲作に必要な水が得やすいため	川の周辺や谷状の低地は、周囲に比べて標高が低いため水が集まりやすく、農業用水を確保するのに非常に有利な条件を備えています。米作り（稲作）には大量の水が必要となるため、こうした地形的特徴を活かして古くから水田として利用されてきました。
問7	答え 4 水俣病 ― 熊本県	熊本県は九州地方の中西部に位置する県で、その南西部の沿岸に位置する水俣市では、工場排水に含まれるメチル水銀が原因で水俣病が発生しました。これは日本の高度経済成長期に深刻な社会問題となった四大公害病の一つです。新潟水俣病は新潟県の阿賀野川流域、イタイイタイ病は富山県の神通川流域、四日市ぜんそくは三重県四日市市の石油コンビナート周辺で発生しました。
問8	答え 2 筑紫平野	筑紫平野は、九州最大の河川である筑後川の下流に広がる平野です。クレーク（水路）が発達し、古くから稲作が盛んに行われています。選択肢の熊本平野は九州中部、宮崎平野は九州南東部に位置します。
問9	答え 1 地熱発電	大分県は火山活動が盛んであり、地下のマグマの熱を利用して高温の水蒸気を取り出し、タービンを回す発電方法が普及しています。これは再生可能エネルギーの一つであり、温泉地としても知られる別府などの地域特性を活かしたものです。水力発電はダムなどの水の落差を利用するもので、火山の熱を利用するものではありません。
問10	答え 1 明治時代から石炭資源を背景に重工業が発展したが、現在はIC（集積回路）や自動車工業など産業の多様化が進んでいる。	九州北部は明治時代以降、豊富な石炭資源を利用して鉄鋼業などの重工業が大きく発展しました。しかし、1960年代のエネルギー革命によってエネルギー源が石炭から石油へと転換されると、炭鉱は閉山し、産業構造の変化を余儀なくされました。その後、空港や高速道路の整備が進んだことで、輸送に便利なIC（集積回路）の工場や、広大な用地を活かした自動車工場が進出し、現在は多様な産業が展開されています。
問11	答え 4 地下ダム	沖縄県の宮古島などに代表される琉球石灰岩地帯では、地表に降った雨が岩の隙間からすぐに地下へ抜けてしまう性質があります。そこで、地下の不透水層（水を通さない層）である泥岩の上に、コンクリートなどで「止水壁」という壁を建設し、地下水の流れをせき止めることで、サトウキビ栽培などの農業用水を安定的に供給する仕組みが導入されました。地上の土地を有効活用しながら、蒸発による損失を防いで水を貯められる利点があります。
問12	答え 3 温暖な気候を活かしたさとうきびなどの工芸作物の栽培が盛んで、その産出額の割合が約40パーセントと非常に高い。	沖縄県の農業産出額の構成を他の県と比較すると、野菜や畜産よりも、さとうきびなどの「工芸作物」を含む項目の割合が突出して高いという特徴があります。これは、台風の被害を受けにくく高温多湿な環境に適した作物として、さとうきびが古くから地域経済を支えてきた背景があるためです。他の選択肢にある「稲（米）」や「近郊農業」は沖縄県の特徴には当てはまらず、シラス台地は鹿児島県を中心とした南九州の地形的特徴です。
問13	答え 1 公害克服の技術や経験を生かしたエコタウンの形成	北九州市はかつて激甚な公害に見舞われたが、市民・企業・行政の協力によりこれを克服した歴史を持つ。現在ではその技術やノウハウを生かし、廃棄物リサイクル施設などを集積させたエコタウン事業を展開し、環境産業都市としての発展を目指している。